

第1回 庄内町立図書館協議会 会議録

開催日時 令和5年5月25日(木) 午後6時30分 開会
午後8時10分 閉会

開催場所 庄内町役場B棟2階 会議室2

出席者 出席委員6名
小野寺姫、齋藤裕美、奥山洋子、志田啓子、佐藤克則、小鷹浩信

欠席者 大山浩司

事務局 社会教育課 課長 樋渡真樹
庄内町立図書館 主査兼図書館長 佐藤晃子

議事日程

- 1 開会 (図書館長)
以下進行 事務局
- 2 辞令交付
- 3 あいさつ (社会教育課長)
- 4 自己紹介
- 5 委員長および副委員長の選任について
委員長 小野寺 姫 氏
副委員長 奥山 洋子 氏
- 6 報告事項 (座長：委員長)
 - ・令和5年度庄内町立図書館運営計画について
 - ・令和5年度庄内町立図書館協議会年間計画について
 - ・令和5年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について
 - ・庄内町立図書館雑誌スポンサー制度実施要綱の設定について《資料に基づき説明：事務局》

委員：図書館をこのように長期間閉館していて一体何をしているんだという声が、自分の元にも届いている。今一度広報などで、休館期間は図書館ではこんなことをしているというPRが必要ではないか。

事務局：休館期間中も、移転に向け、当初の想像以上の作業に連日取り組んでいるが、そこを町民の皆様にもご理解いただかなくては、新しい図書館への来館にもつながらないと思っている。貴重なご意見であり、対応していきたい。

委員：想定以上の大変な準備をしているということも情報発信していくべき。生真面目な発信よりも、インスタなどで、多少のユーモアも含めたスタイルで、準備の大変さを発信することで、町民も開館が楽しみになるのではないか。町民が求めているのは、正当な情報発信と、

図書館に対して親しみが湧くような「裏話的」な部分があると思う。

休館して楽をしているのではなく、新しいことを生み出す苦労も是非発信すべきではないか。

委員：同感である。新たな建物を建てるということは、大きなイベントであり、映像などで残してもらうのは大変いいことである。インスタもいいが、町の広報として、町の財産が出来上がるということを引きちんと残すべきではないか。

分館の方では、現在もインスタを使っての広報をしているが、本館の方は現在移転作業でそれどころではないと思うので、町の広報担当者に協力してもらってはどうか。

委員：町のインスタで、立川中学校の入学式の動画配信を見て感激した。そのような形で発信してはどうか。

委員：町民は、図書館の移転準備を見る機会などないため、例えば本棚に本がどんどん並んでいく様子を早送りでも発信したり、ラベル貼りなどの様子をアップするなどはどうか。

委員：一般的には、図書館は本を借りる、返すところで、あとは何をやっているのか分からないという方が多い。理解がある人とそうでない人の差が大きいので、図書館はたくさんの仕事や作業があるのだ、ということから入ってもらったほうがいい。

委員：除籍作業中ということであるが、除籍に迷う本というのはどのような本なのか、逆に興味が沸いた。そのあたりもインスタなどで発信してはどうか。

課長：除籍作業も大量で、図書館職員だけでは対応できず、社会教育課へ応援要請をしている状況である。作業を実際してみると、町職員でも知らなかった部分が多くあると同時に、時間が迫る中、予定される冊数に対応するので精一杯である。

委員：やはり、図書館職員自らは困難であるので、町の広報担当者の協力を得る方がいい。

事務局：図書館職員では、情報発信までは十分な対応ができない現状の中、委員のご意見を頂戴して、あらためて広報から取材を受ける形での情報発信の可能性の高さに気づかされた。早速対応していきたい。

委員：オープニングイベントの企画も図書館職員でやるのか。町の協力体制はどうなっているのか。

事務局：原案は図書館で考えるが、その後社会教育課も含め段階的に協議を進めていく。ただ、今回は2期に分かれての工事となっているため、仮オープンイベントについては、工事も続行中ということも踏まえ、やや縮小しての規模での実施を想定している。令和6年度に入ってからの本オープンのイベントについては、規模も含め、あらためて検討していく。

委員：広報担当者の協力も得て、例えば完成までの記録（動画）の上映会等、企画を進めてはどうか。或いは、広報での連載も考えられる。新図書館のオープンを機に、更に利用者の拡大を図りたいというのであれば、もっと町全体で協力し、大きなイベント企画、情報発信を進めるべきではないか。町としてこういった動きを考えているのか。

事務局：移転の記録や情報発信という意味では、図書館からの協力要請も弱かったと感じている。

委員：仮オープンというのは、建物を見せるのか、機能や蔵書を見せるのか。

事務局：1期工事竣工エリアからオープンし、運営を開始する。本の貸出しも再開するが、建物の一部でのオープンであるため、開架スペースおよび設置冊数についても制約があり、また諸室に関しても使用できない部屋がある。

委員：（仮オープン前の）内覧会の予定はあるのか。

事務局：工事のスケジュールを考えると設定は難しい。

委員：そうすると、やはり映像を残していくことは大切である。

委員長：町民が関心のある部分について、記録として残していくことの重要性について認識されたと思う。従来通りの広報紙面の活用に加え、インスタでの発信も是非対応していただきたい。

委員：例えば、建設過程を請負業者の方で記録して残すということは考えられないか。

事務局：先ほど受けた意見も含め、検討させていただきたい。

委員：雑誌スポンサー制度について。法人側や企業より、協力したいという話が出ている。雑誌の支払いについては、月別払いか、年間支払いか。

事務局：雑誌によって、支払方法の要件があるかもしれないが、スポンサーと納入業者間での協議になるかと思う。要綱では、概ね1年以上継続して納品していただきたい旨、定めてある。

委員：自分が聞いた範囲では、企業にとっては、年間購読の方がいいという考えのようである。

事務局：年間支払いということでも問題はないかと思う。

7 協議事項（座長：委員長）

(1) 令和4年度庄内町立図書館・内藤秀因水彩画記念館における事業評価（総括）について

《資料に基づき説明：事務局》

委員：分館の児童図書コーナーについて。いい本が入っているにも関わらず、少子化や、子どもたち自身の忙しさに加え、学校からも、ある意味強制的に本を借りて読まなくてはならないといったこともあり、利用が進まない。

一方、大人向けの本については、元々新刊の数が少ないのに加えて、最近では中・高齢者向けの本が非常に少なくなっていると感じる。本館に行って借りればいいのかもしいが、高齢化率も上がっている地域であり、デジタル社会といえども、アナログの紙の書籍の方が需要があり、やはり身近な分館に、借りたい本が設置されていないのは不便である。それは、出版状況全体の傾向なのか、選書の問題なのか。最近、若い方向けの本は充実していると感じるが、中高年向けの本が少ないと感じる。

工事に伴って、これまでも利用者は様々我慢をしてきた。これからは、分館の方にももっと目を向けて、力を入れてほしい。

事務局：これまでは、限られた予算ということもあり、本館と分館で購入本が重複することを極力避けてきた。今年度は、予算もある程度確保してあるので、ニーズの高い本については、同じ町内でも、結果的に町民の皆様にご喜ばれる結果となるとすれば、本館・分館両方へ設置する方向で進めていきたい。

委員：古いものでいいので、本館から分館に移動させてほしいと依頼したが、巡回図書（団体貸出）のタイミングでの対応となり、結局思うような冊数や読みたいタイトルが入ってこなかった。分館への本の移動である以上、これまでのような内容では不満を感じる。

狩川まちづくりセンターにも専用のリース車両が入ったということで、本館の職員が本を運搬するのではなく、狩川まちづくりセンターの担当職員が本館側へ借りに行くということは可能か。

また、立川複合拠点施設オープン後も、狩川まちづくりセンターの建物は残ることなので、現状の閉架スペースはそのまま使用できないか。狩川まちづくりセンターの職員からは使用不可との回答があったが、なぜ利用できないのか、理由を伺いたい。

事務局：分館については、基本的には、閉架部分も含めて、すべて立川複合拠点施設に移転する準備を進めている。閉架書庫も必要収容冊数は確保してある。

委員：分館応援団のような自主グループでも、引っ越し時期が過ぎた際には、本館の閉架に入室し本を選ぶことは可能か。新刊購入を要望する前に、本館の閉架にある本を見せていただきたい。

事務局：分館の一般図書については、スペース的にも広くなり、収容冊数も増える。

課長：本館の仮オープンより、分館のオープンの方が日程は早い。まずは分館の方を先に充実させていくという方法もある。新たな分館も大変きれいに完成したので、皆さんから盛り上げていただきたい。

委員：とにかく、オープンを心待ちにしている状態である。楽しみにしている。

委員長：地域の想い、待ち望んでいる人がいるのだということを実感した。これまではどうしても本館の方に注力してきた傾向にあるが、分館についても、地域のひとつの拠点として充実していく必要があるということ、強く感じた。地域の方が、運営まで踏み込んで、選書までしたいという思いは素晴らしいと思うし、地元の住民が参加し、住民を巻き込んだ運営については、今後も重点的な施策として進めていただきたい。

委員：図書館の選書方法について。

事務局：館内で選書を進め、打合せもしながら、最終的には館長の責任で最終判断をしていく。

委員：リクエストは受付しているのか。

事務局：現状でも未所蔵本のリクエストや所蔵本予約の受付は実施している。但し、予算の制約や公平性の確保も必要であることから、冊数制限はさせていただいている。

委員：選書が偏っていると感ずることがある。

課長：職員が選ぶだけでなく、専門業者の選書も入っているので、偏りが少ないような手立てはしている。

委員：小学校高学年になると、読む本が見当たらないように感じる。中学生前後の世代のニーズに答えられていないのではないか。

事務局：ヤングアダルト世代と呼ばれる年齢域の本については、現在は児童書の中に埋もれてしまっている状態にある。新図書館では、コーナーを別置き、より目に留まりやすい、手に取りやすいような配架を目指していく。

委員：来館してほしい層が、読みたい本がない、ということにならないような手立てが必要である。

事務局：ティーンズコーナー、ヤングアダルトコーナーといったコーナー設置をすることで、必然的に関心のある年代層の子どもたちは足を運んでくれるのではないかと期待しているが、1期工事後の仮オープン時には、残念ながらスペースの関係で設置できない。全館オープン時には設置を目指して準備していきたい。

課長：リクエスト制度についても、中学生世代にも活用してほしい。

委員：この機に、ヤングアダルト世代を含め、いろんな意見をもらっての選書もいいのではないか。

事務局：今年度は予算の関係もあり見合わせた。これまでは町内全校へ購入希望調査を実施し、学校側からリクエストがあった本やセットものを購入した上で、要望に応じて各校へ貸出しする取り組みもしてきた。

児童・生徒の直の声やリクエストと同時に、日々子どもたちに対峙している先生方の意見も

取り入れつつ、ヤングアダルトコーナーの充実を図っていききたい。

委員長：「庄内町子ども読書活動推進計画」の取り組みとも連携させながら進めてほしい。

(2)「庄内町子ども読書活動推進計画（第三次）」の計画期間の延長について

≪資料に基づき説明：事務局≫

計画期間を2年間延長することで、全員了承

8 その他

- ・令和5年度（第74回）北日本図書館大会山形大会（第43回山形県図書館研究大会）開催要項について

9 閉 会